

問 11 ID 管理の監査に関する次の記述を読んで、設問 1～6 に答えよ。

T 社は、関東を中心に、住宅の販売、施工及びリフォームを手掛けている住宅販売会社である。T 社の基幹システムである住宅販売システムは、重要な情報を管理していることから、T 社ではアクセス管理を強化することにした。その一環として、T 社の監査室は、住宅販売システムを利用するための ID（以下、利用者 ID という）の管理状況について、システム監査を実施することにした。

〔住宅販売システムの予備調査〕

住宅販売システムは自社で開発し、本社の営業管理部と 20 か所の支店で利用されている。監査室では、これらの利用者 ID の管理状況について予備調査を行い、次の情報を入手した。

(1) 利用者 ID の概要

利用者 ID は、住宅販売システムの権限マスタで管理されている。権限マスタには、利用者 ID、利用者名、所属、役職、利用権限及び最終更新日が記録されている。利用権限には、メニュー別に利用の可否を設定できる。

- ① メニューのうち、管理者メニューでは、権限マスタの更新及びアクセスログの参照ができる。管理者メニューの利用権限が与えられているのは、各支店及び営業管理部のそれぞれ 1 名（以下、システム管理者という）である。
- ② システム管理者以外の利用者 ID には、管理者メニュー以外の各メニューの入力、承認、参照などの利用権限が設定されており、住宅販売システムの顧客情報などもダウンロードできる。

支店では、一部の従業員しか住宅販売システムを利用していないので、利用者 ID の付与は当該従業員に限定されている。一方、営業管理部に所属している従業員の場合、全員に利用者 ID が付与されている。

(2) 利用者 ID の更新（登録・変更・削除）

利用者 ID の更新は、各支店及び営業管理部のシステム管理者が実施している。

- ① 支店の利用者 ID の更新については、ID 申請書に利用者本人が必要事項を記入し、支店長の承認を受けた後、当該支店のシステム管理者に渡している。システム管理者は、承認済み ID 申請書に基づいて、権限マスタデータを更新している。

- ② 営業管理部の利用者 ID の更新については、ID 申請書に利用者本人が必要事項を記入し、本人が所属する課の課長の承認を受けた後、営業管理部のシステム管理者に渡している。システム管理者は、ID 管理台帳に利用者 ID 情報を記載した後に、権限マスタデータを更新している。ID 管理台帳には、利用者 ID、利用者名、所属、役職、利用権限及び更新日が記載されている。
- ③ 利用者 ID は、“部門番号+連番”で構成されており、人事システムの情報を更新しても権限マスタの情報は自動更新されない。したがって、部門間の異動の場合には、異動元での削除申請と異動先での登録申請を行う必要がある。
- (3) 利用者 ID の定期的な確認（以下、利用者 ID 棚卸という）
- 利用者 ID 棚卸は、権限マスタの登録内容が適切かどうかを定期的に確認するために、年に 2 回、各支店及び営業管理部で実施されている。
- ① 支店では、利用者 ID 数が少ないので、各支店のシステム管理者が住宅販売システムの権限マスタ一覧画面で、利用者 ID、利用者名、所属及び役職を照会し、画面上で直接確認作業を行っている。このとき、支店に在籍していない従業員の利用者 ID が発見された場合は、支店長の承認を得て画面上で権限マスタデータを更新している。
- ② 営業管理部では、システム管理者が ID 管理台帳のコピーを利用者 ID 棚卸リストとして各課に配布する。各課の課長は、利用権限などの各項目にチェックマークを付けながら訂正事項があれば記載し、承認印を押してシステム管理者に返している。システム管理者は回収した利用者 ID 棚卸リストの訂正事項に基づいて ID 申請書に修正事項を記入し、営業管理部長の承認を得て ID 管理台帳及び権限マスタデータを更新している。
- (4) 利用者 ID の監視
- 情報漏えい防止の観点から、情報をダウンロードできるメニューの利用を記録しており、各支店及び営業管理部のシステム管理者が利用結果を監視している。情報のダウンロード用のメニューは、利用しやすいように情報の種類別に提供されている。
- ① ダウンロードの理由を記録に残すために、当該メニューの利用者は必ずシステム管理者にダウンロードの対象範囲及び理由を電子メールで報告する。ダウンロード操作は、システム管理者が実施する場合もある。その場合にはシステム管理者自身宛ての電子メールで記録に残す。

- ② システム管理者は、住宅販売システムのアクセスログから情報のダウンロード用メニューの利用ログを選択して“月次ログリスト”として出力し、内容のレビューを行い、確認印を押している。不正アクセスが発見された場合は、支店長又は営業管理部長に報告している。

〔監査計画〕

監査室は、予備調査で入手した情報に基づいて監査要点を検討し、これに対応する監査手続を策定して、表 1 に示す“監査手続一覧”にまとめた。

表 1 監査手続一覧

項番	監査要点	監査手続
(1)	利用者 ID が適切に更新されているか。	①承認済み ID 申請書に対応する権限マスタデータが当該 ID 申請書の内容と一致しているかどうかを確認する。 ②削除申請については、ID 申請書の網羅性を検証するために、 <input type="text" value="a"/> の情報に基づいて ID 申請書の有無を確認する。
(2)	利用者 ID 棚卸が適切に実施されているか。	①支店において、利用者 ID 棚卸が適切に実施されているかどうかを確認する。 ②営業管理部の利用者 ID 棚卸リストをレビューし、利用者 ID 棚卸が適切に実施されているかどうかを確認する。 ③営業管理部の利用者 ID 棚卸の手続が不十分なので、監査人が自ら <input type="text" value="b"/> と <input type="text" value="c"/> を照合し、一致しているかどうかを確認する。
(3)	利用者 ID の監視が有効に実施されているか。	①月次ログリストの出力対象が、 <input type="text" value="d"/> を満たしているかどうかを確認する。 ②月次ログリストのレビューについて、リストにシステム管理者の確認印があるかどうかを確認する。

設問 1 表 1 中の項番(1)の監査手続①だけでは、利用者 ID の不正な更新を検出できない場合がある。どのような場合に検出できないか、25 字以内で述べよ。

設問 2 表 1 中の項番(1)の に入れる適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

- ア 権限マスタの最終更新日
- イ 権限マスタの利用者 ID
- ウ システム管理者の利用者 ID のアクセスログ
- エ 人事異動及び退職

設問3 支店の現状の利用者 ID 棚卸の手続では、表 1 中の項番(2)の監査手続①を実施するのに支障を来す。その理由を 25 字以内で述べよ。

設問4 表 1 中の項番(2)の監査手続③において照合すべき と に入れる適切な字句を、それぞれ 10 字以内で答えよ。

設問5 表 1 中の項番(3)の に入れる最も適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

ア 可用性 イ 機密性 ウ 効率性 エ 網羅性

設問6 表 1 中の項番(3)の監査手続①及び②の結果に問題がなかったとしても、現状のシステム管理者による利用ログのレビューでは不正が適切に報告されない可能性がある。考えられる可能性を 25 字以内で述べよ。